



13
3058
1





対 へ13
3058

へ13 特
3058
1

昭和九
七月二日
購求

世評名

桃太郎鬼島記

椿説

鬼魅談語

初編

上册

為永春水作
一壽齋國貞画

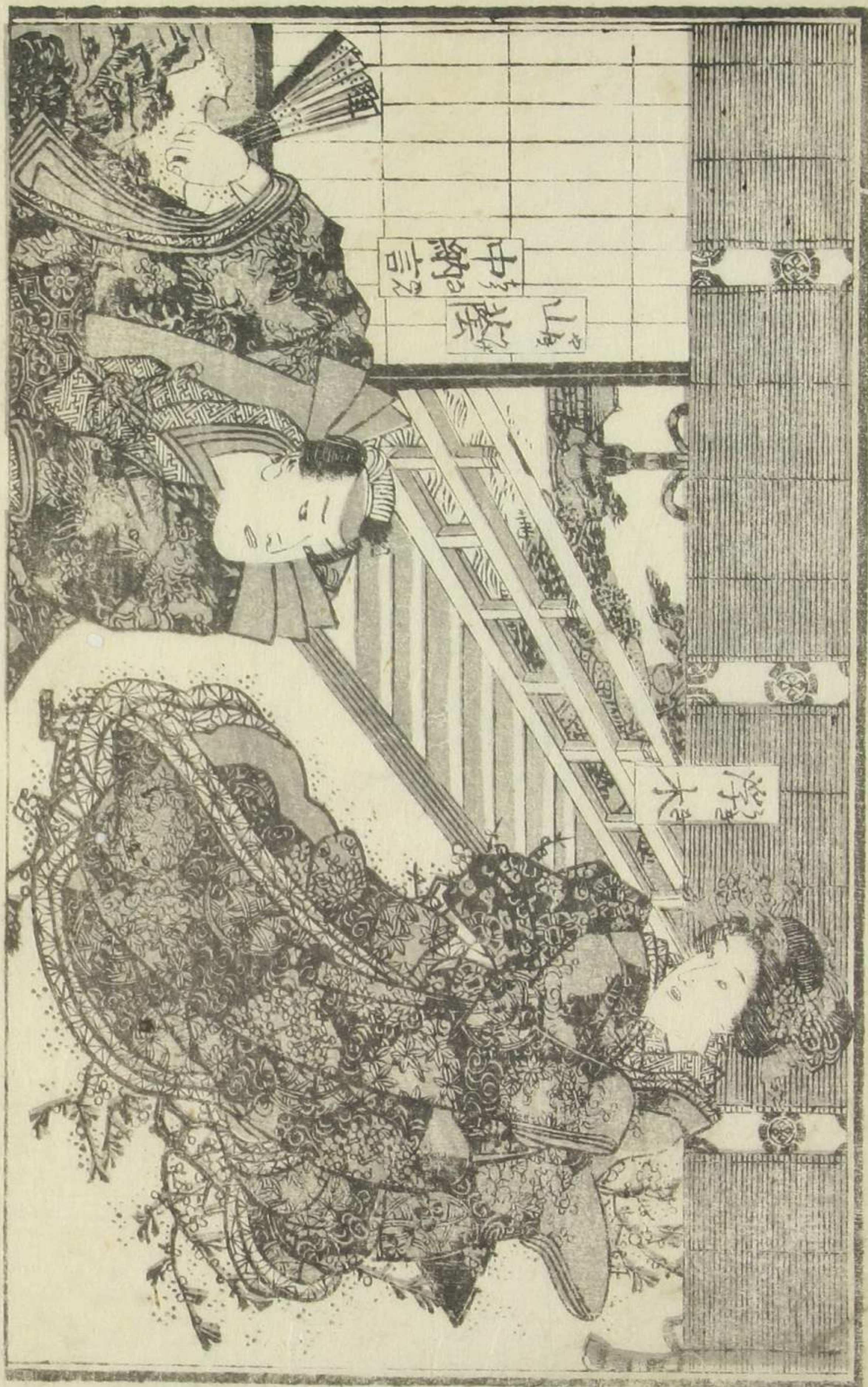
榮久堂



昔吐の桃太郎ハ那西遊記ニ相似ル先其の二と擬見ル他ハ十方八千里の西の
天小をもひて佛を拜し經を取り是ハ八万四千里の煩惱海を打渡り鬼を殺し
寶珠を採る鬼と佛ハ一如りて寶珠と經ハ是一對介ハ首途の黍團子の
丸いところガ三藏法師ト下さハ供と出る猴ハさうガ孫悟空犬ガさるハ
猪ハ戒沙僧と龍馬の二役を雉子ガ兼るバ可あらん然然とも嚮向ハ西遊
記ハ曲亭の師兄ガ繼案ト金毘羅船の大筆あり因て這回ハ上日赴と
あらとて世事でちろめて浮氣でこみて喜撰めらねどお茶うけ最一ツ
龍考ハ鬼魅談語原より浮屠氏の説をりて這全傳の種とらまればも
然とて佛臭うハ専策子と今めじて迷故三界上物ハ製あげある
書房ガ丹誠悟故十方の着官空とも喰とも味と噓分ぬ願ふふらん

安政四稔
丁巳孟春發行

為永春水識る



中納言

山

浮木



早瀬



横上左久馬

百川兵庫

揚巻二郎



色迷

炎吾

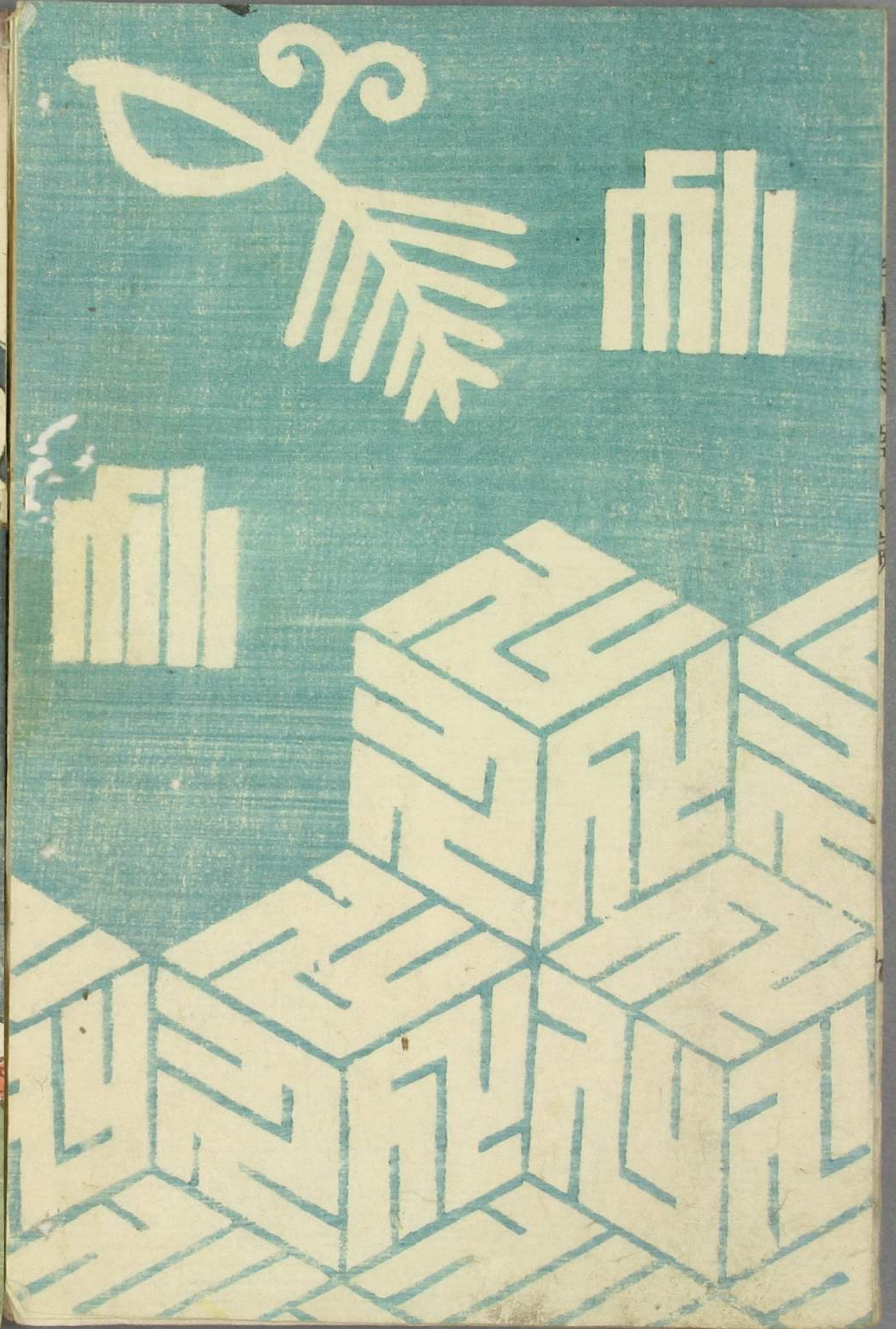


為永春水作

初篇下



一壽齋國貞画





いふに... 山... 鬼魁... 談話... 初編...
 山... 鬼魁... 談話... 初編...
 山... 鬼魁... 談話... 初編...

山... 鬼魁... 談話... 初編...
 山... 鬼魁... 談話... 初編...
 山... 鬼魁... 談話... 初編...



子... 鬼魁... 談話... 初編...
 子... 鬼魁... 談話... 初編...
 子... 鬼魁... 談話... 初編...

子... 鬼魁... 談話... 初編...
 子... 鬼魁... 談話... 初編...
 子... 鬼魁... 談話... 初編...

鬼魁談話初編

十三





Handwritten Japanese text in the upper left corner, likely a title or introductory text for the scene.

Vertical columns of handwritten Japanese text on the left side of the illustration, providing commentary or a narrative.

Handwritten Japanese text located at the bottom of the illustration, possibly a signature or a specific note.



Vertical columns of handwritten Japanese text on the right side of the illustration, providing commentary or a narrative.

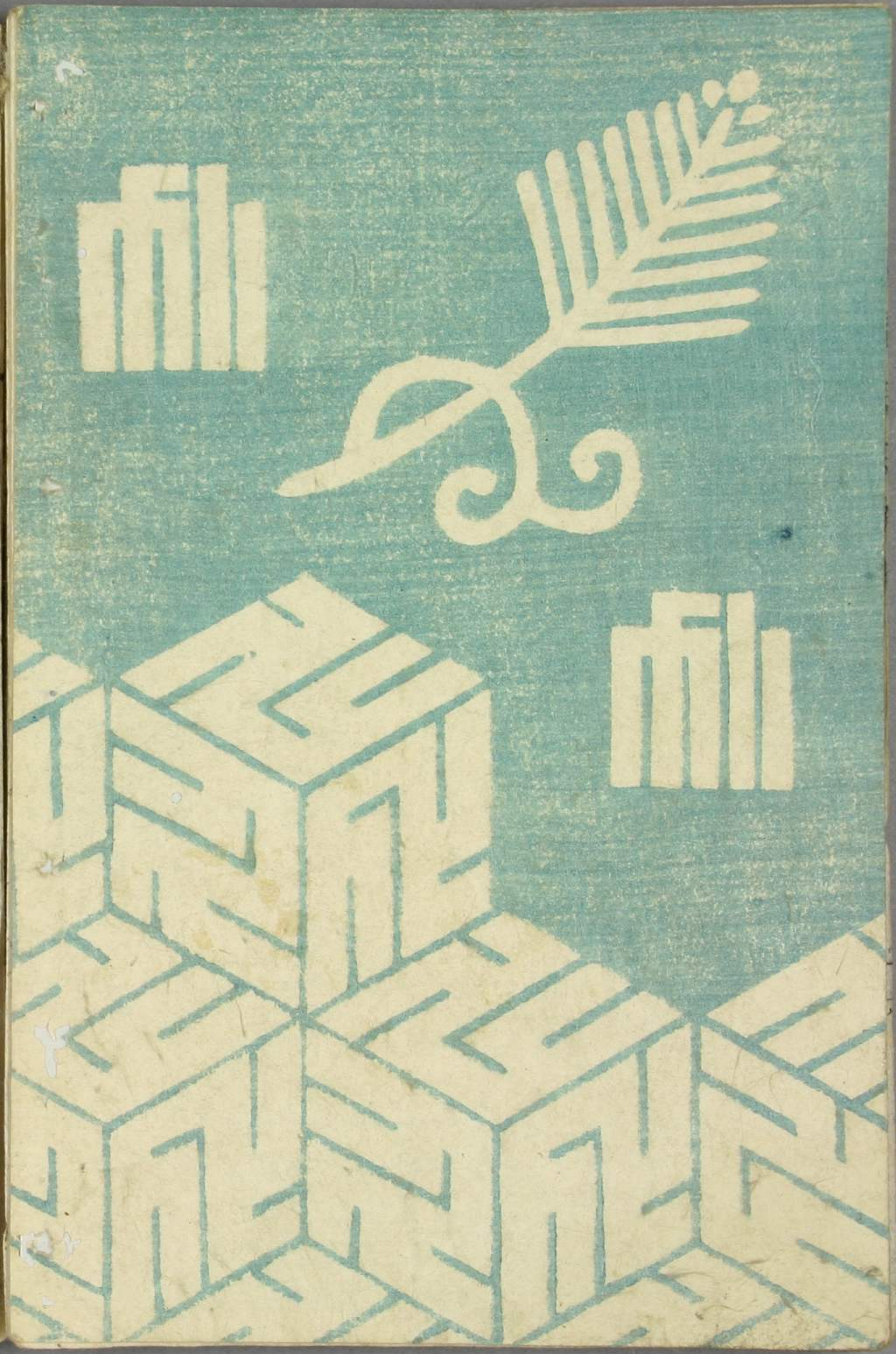
Handwritten Japanese text located at the bottom of the illustration, possibly a signature or a specific note.



爲永春水作
雄齋國輝画

非題曲五五國色

二編上



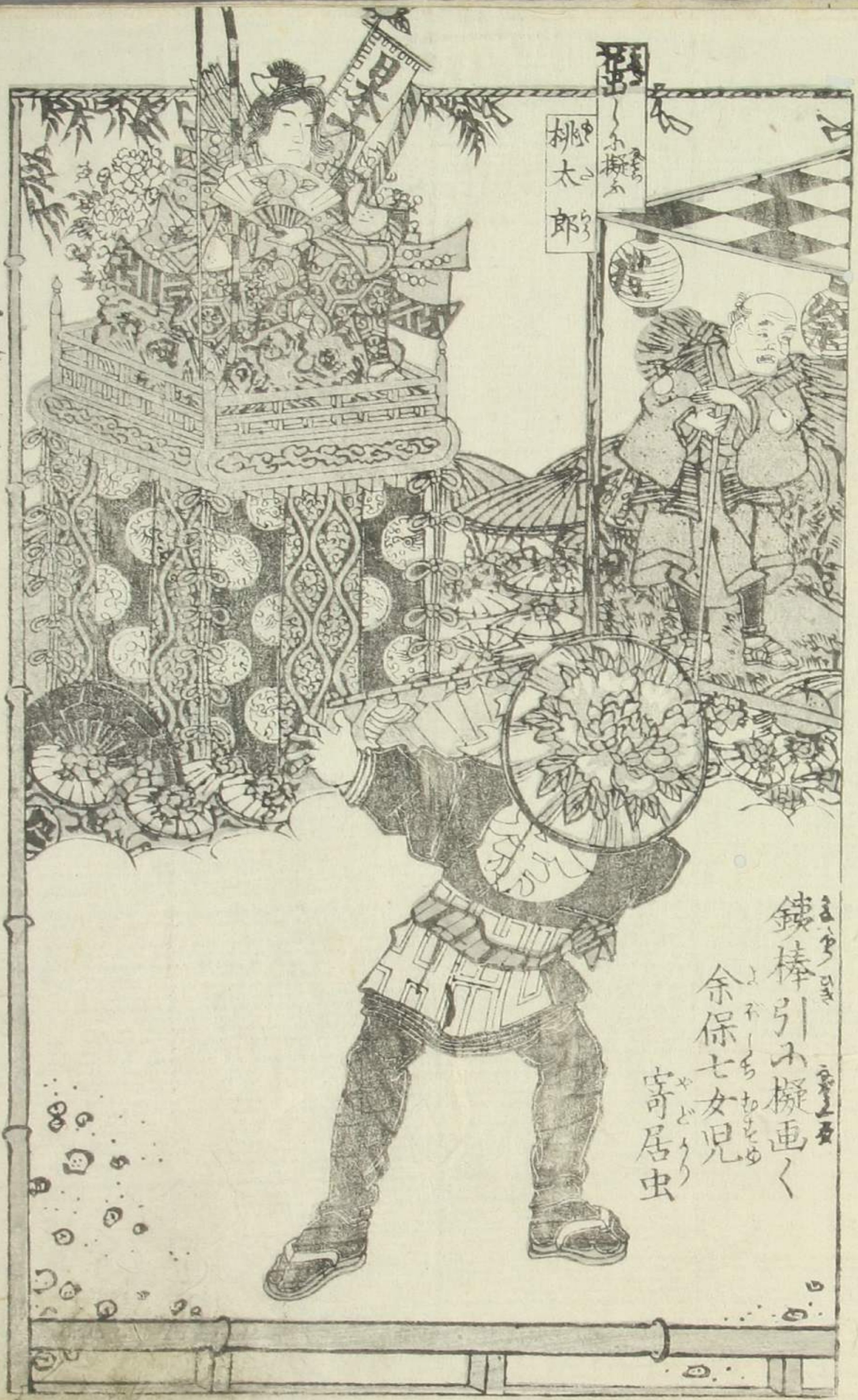
四年巳初春吉旦



東西高ういへばまことれが口上をりてや上ます
 扱羊との新板物何とゆはれふまうも作者の腰より
 見物のわん目が肥て入せらるるまが那も古ひ是もま
 何の本心見ゆらると鬼お角の意み入まはるひ
 逆も新奇妙察るんらう咄等が力ふかふかぬ
 るも古ひもふかひ極古ひ爺と婆の咄しを
 猶るめうく綴りかふさるるこのかゆみせんと
 是も古めうの戯言みうり序のまわり口上さるう

春水哉





桃太郎

鑊棒引小擬画
 余保七女兒
 寄居虫

鬼抹大五



氏子中

近江國桃崎山の
 夢作
 媼現立
 作物小擬

幸府天満宮
 祭禮不寄

貞兔言言





榮久堂刊行
藏板
録目

瀬川五郷
情花廓文庫
仙果作 國貞画
初編 二編

繪姉妹次女見草紙
曾文作 國芳画
初編 二編

仙果著作
豊國翁画

三都妖婦傳
當出板
仙果著作
豊國翁画

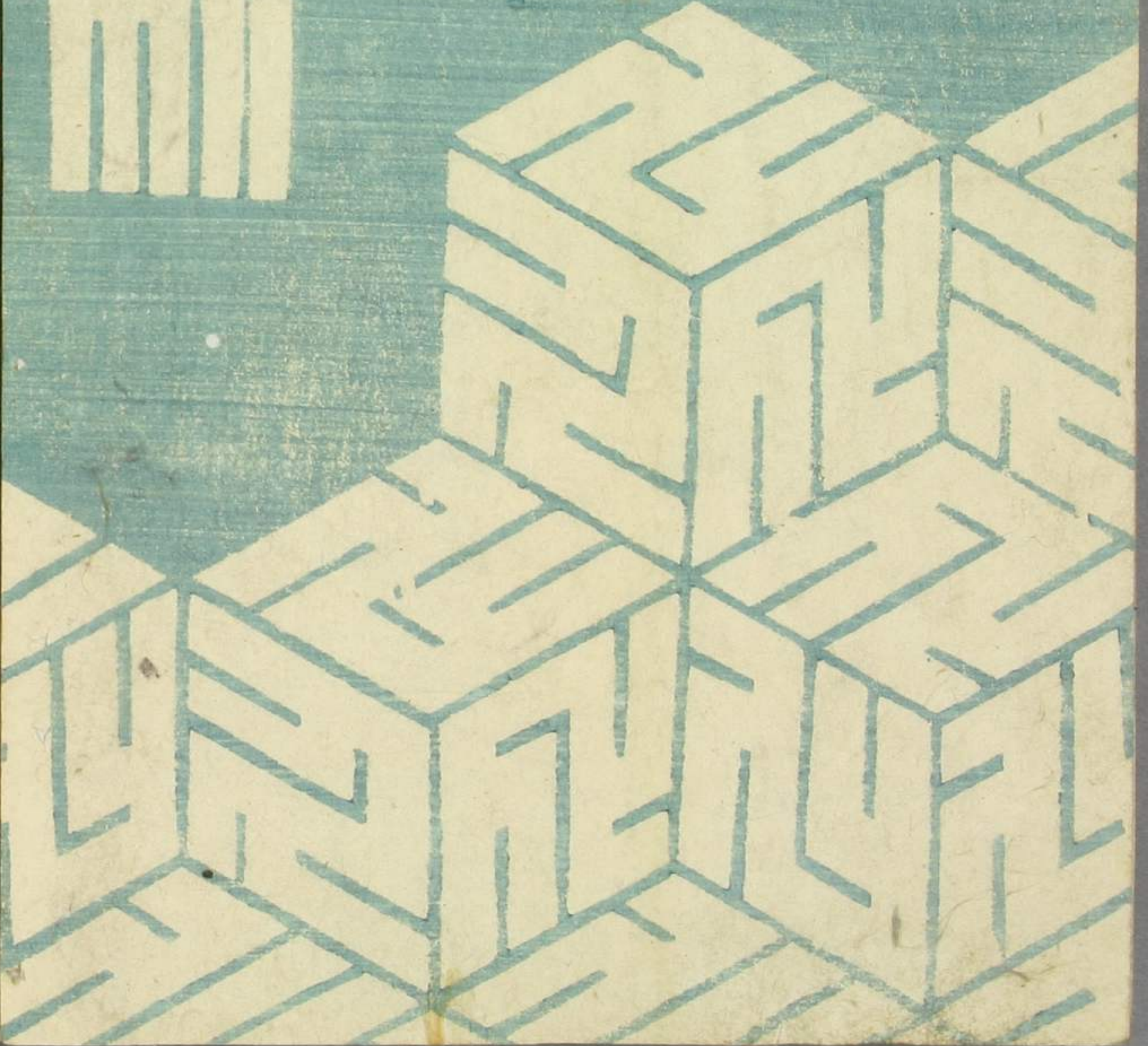
鬼魅談話
せり

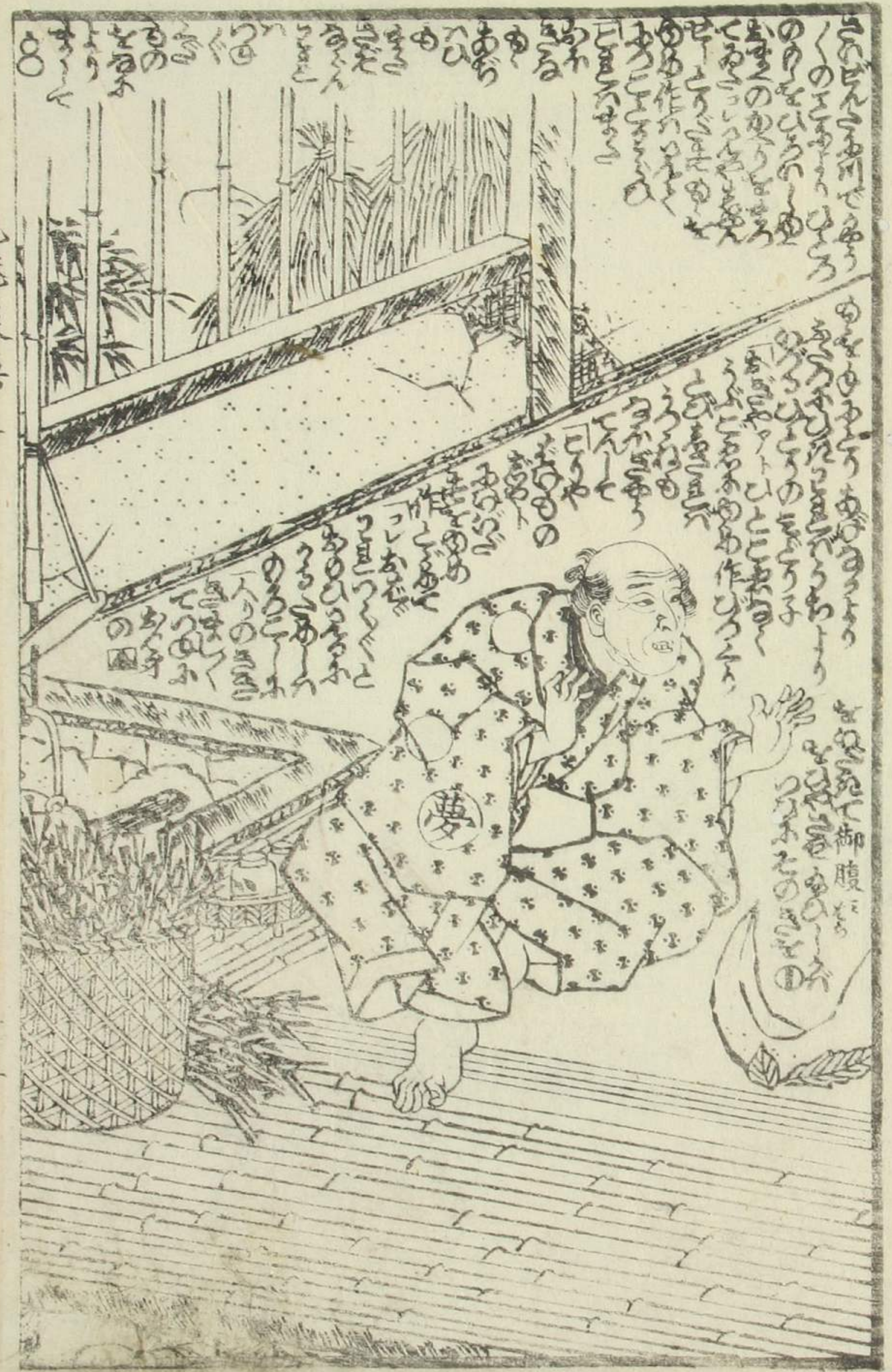


二編下

仙

仙





Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the top and left sides of the illustration.

Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the middle and right sides of the illustration.

Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the bottom and left sides of the illustration.

Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the bottom and right sides of the illustration.



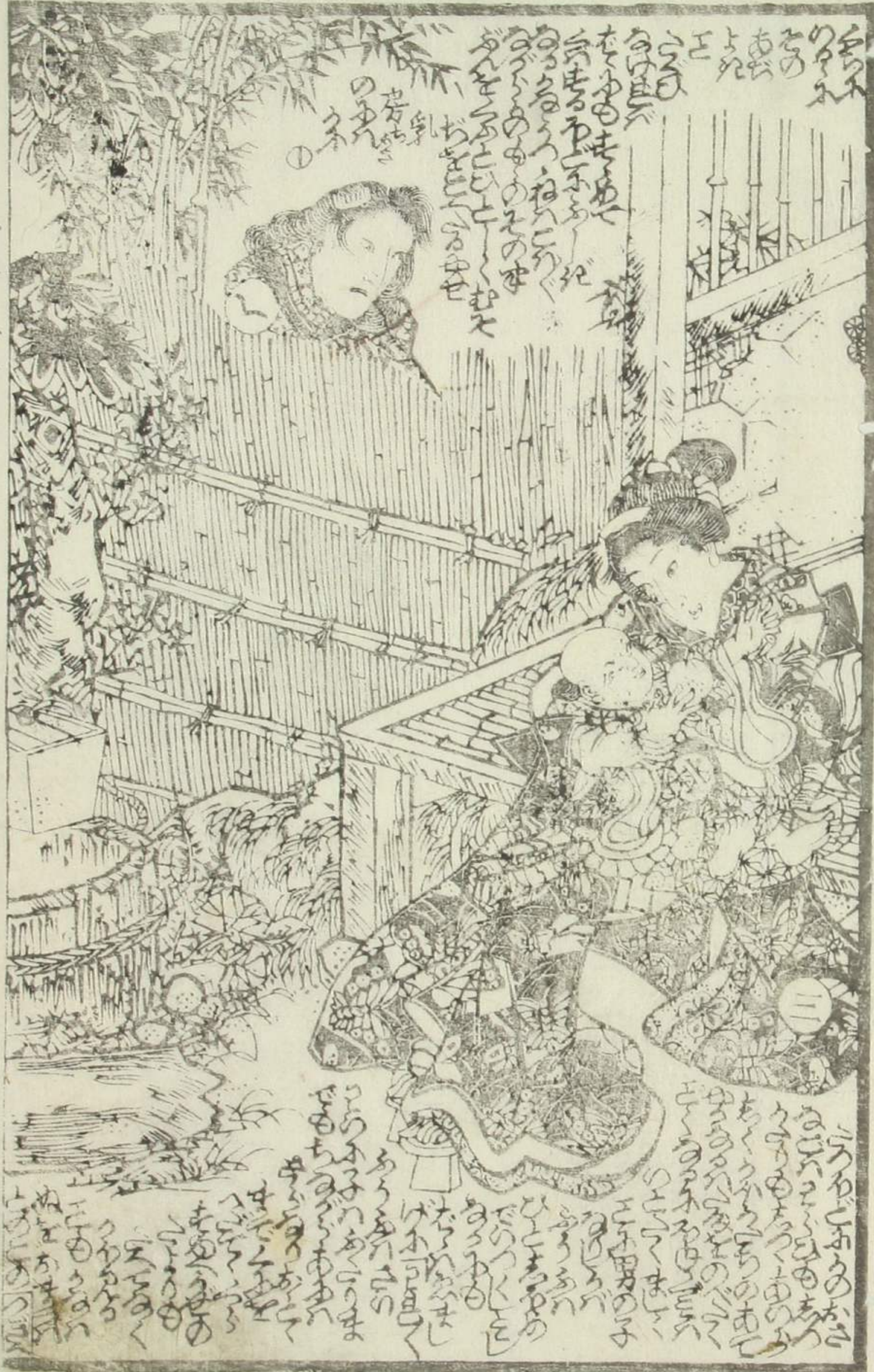
Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the top and left sides of the illustration.

Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the middle and right sides of the illustration.

Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the bottom and left sides of the illustration.

Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the bottom and right sides of the illustration.

Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the bottom and right sides of the illustration.

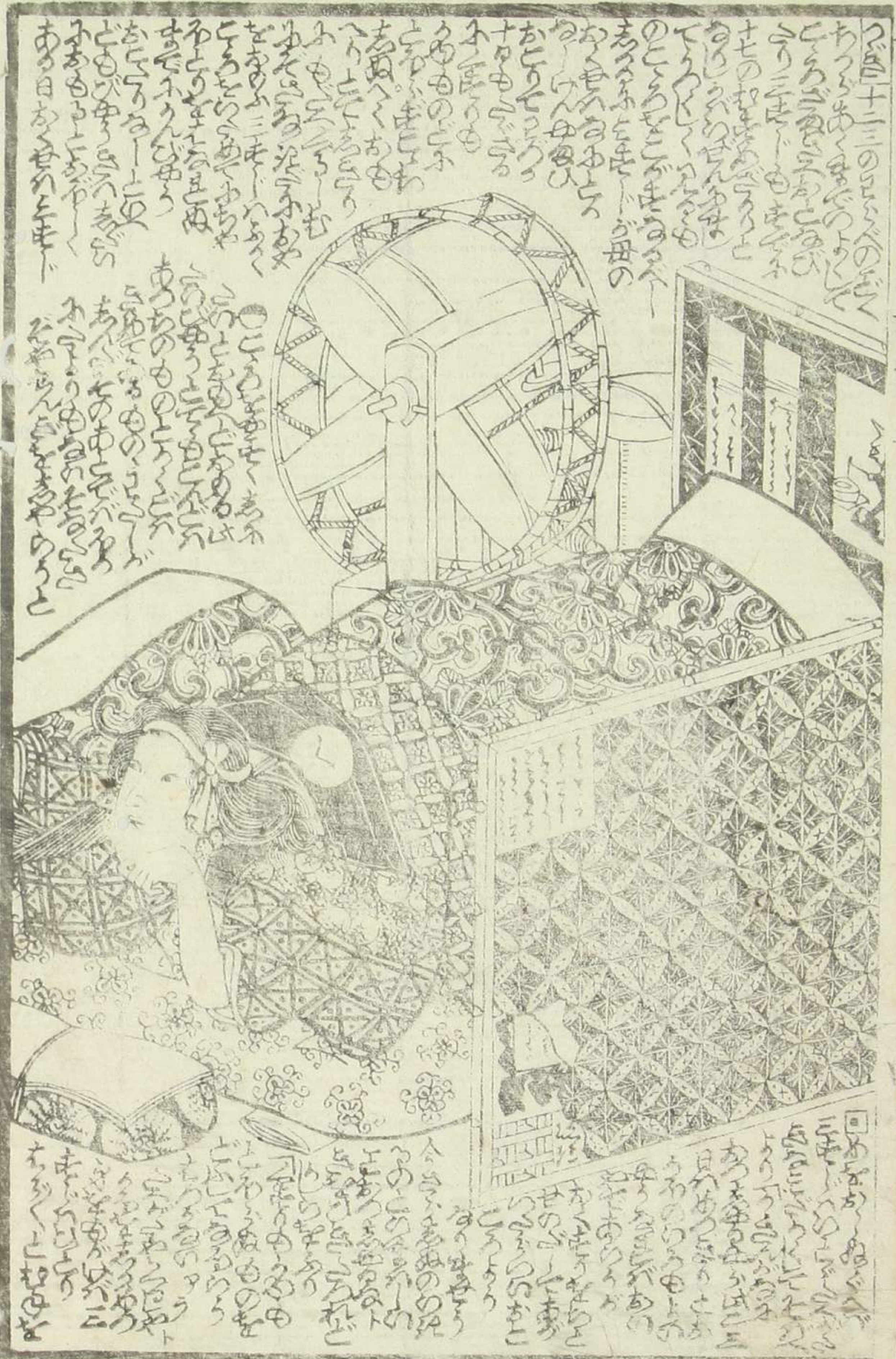




Vertical Japanese text in the upper left corner, likely a chapter or section title.

Vertical Japanese text in the upper right corner, likely a chapter or section title.

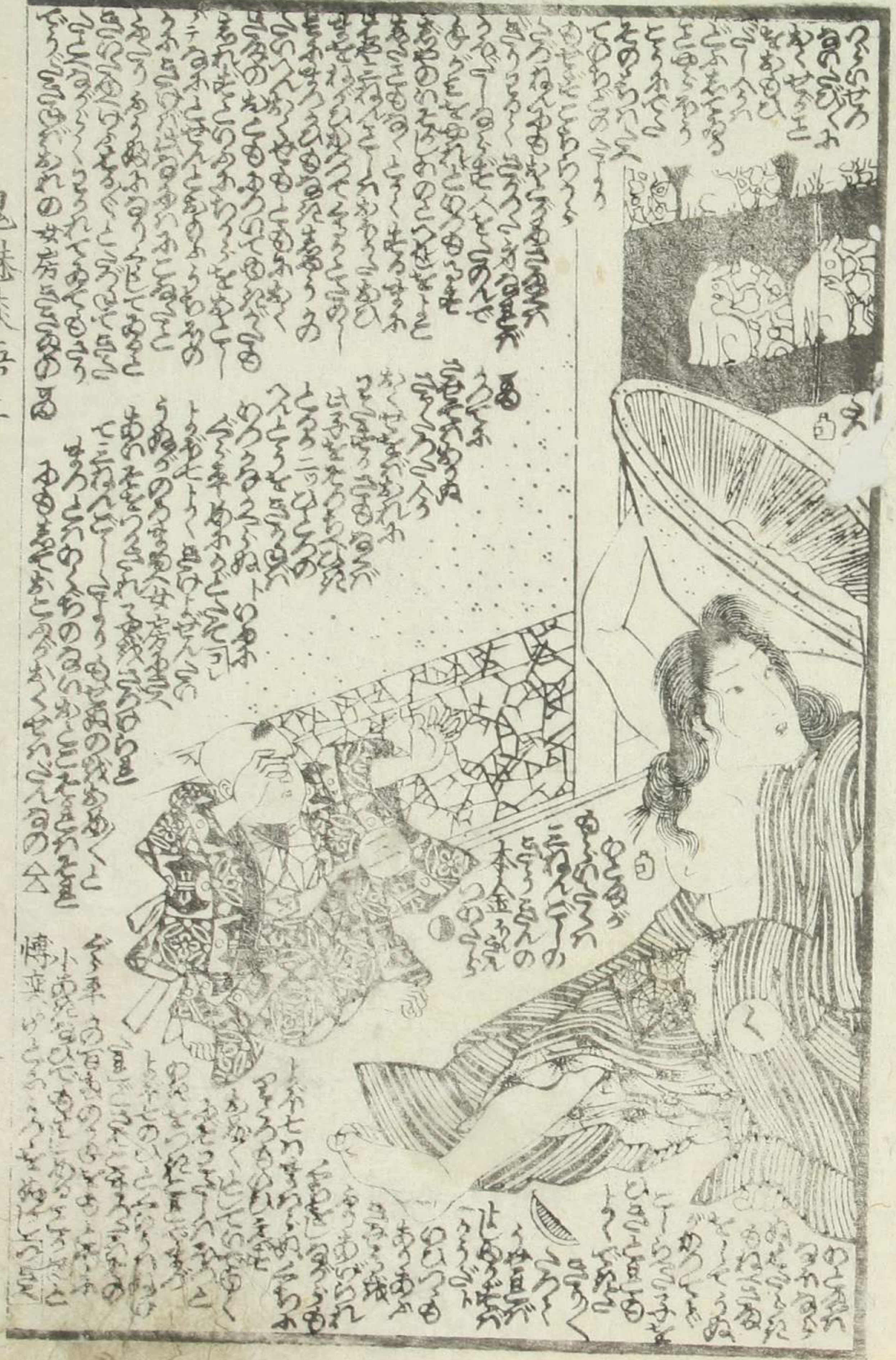
Vertical Japanese text in the lower left and right corners, likely a chapter or section title.

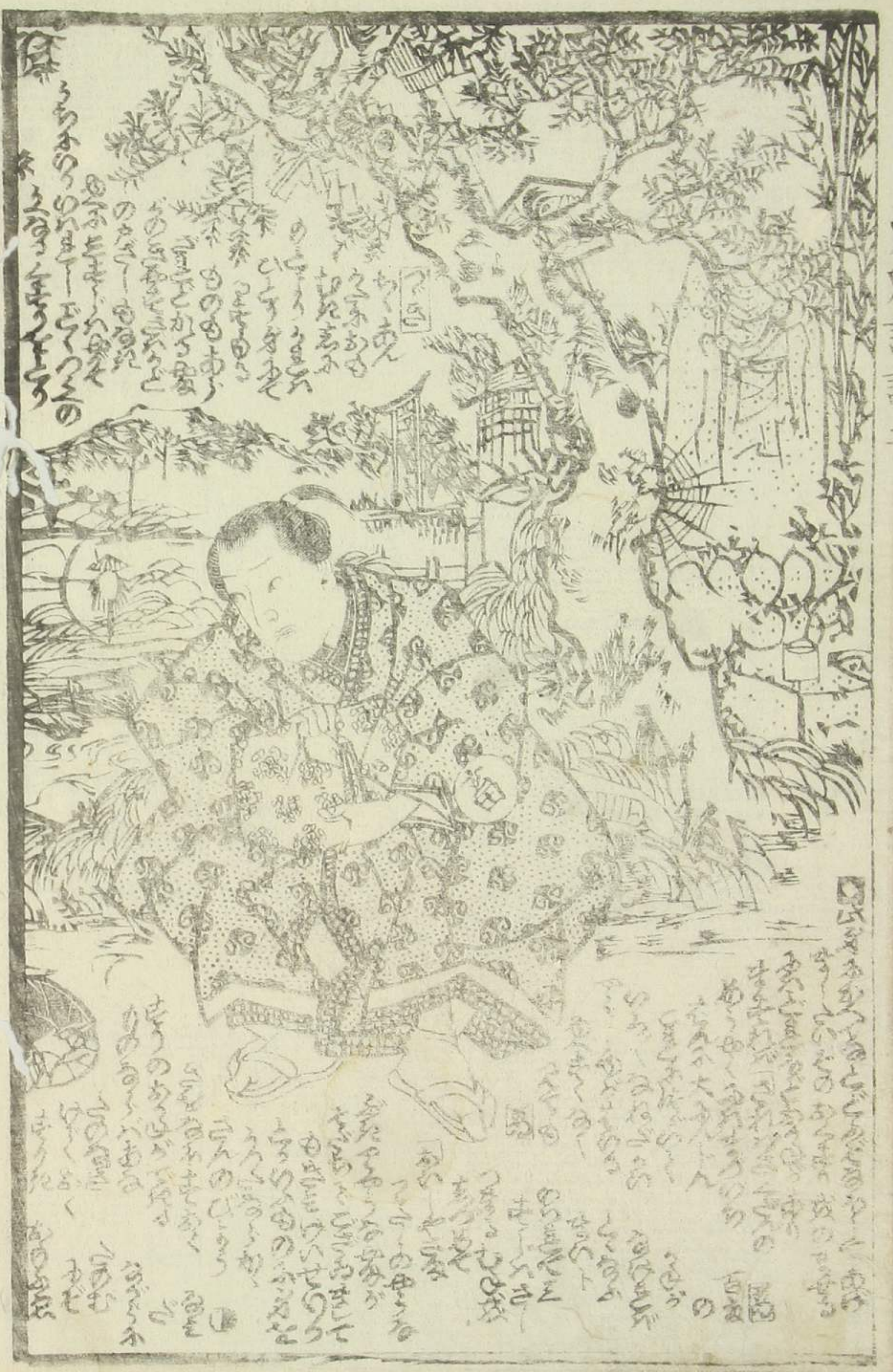


Vertical Japanese text in the upper left corner, likely a chapter or section title.

Vertical Japanese text in the upper right corner, likely a chapter or section title.

Vertical Japanese text in the lower left and right corners, likely a chapter or section title.





Handwritten text in the upper left corner of the illustration, likely a title or introductory text.

Handwritten text in the lower right corner of the illustration, likely a descriptive text or a poem.



Handwritten text in the upper right corner of the illustration, likely a title or introductory text.

Handwritten text in the lower left corner of the illustration, likely a descriptive text or a poem.



為永春水作一雄齋國輝画

朝鮮牛肉丸 包 白銅
 此丸の作りは、海苔の皮を
 つまみ、その中に牛肉を
 詰めて、丸くし、油で揚げ
 る。味は、香ばしく、肉
 の旨味が出る。海苔の皮
 は、柔らかく、口当たりが
 良い。下谷とせせらり
 對馬やと 津崎氏製

此丸の作りは、海苔の皮を
 つまみ、その中に牛肉を
 詰めて、丸くし、油で揚げ
 る。味は、香ばしく、肉
 の旨味が出る。海苔の皮
 は、柔らかく、口当たりが
 良い。下谷とせせらり
 對馬やと 津崎氏製

此丸の作りは、海苔の皮を
 つまみ、その中に牛肉を
 詰めて、丸くし、油で揚げ
 る。味は、香ばしく、肉
 の旨味が出る。海苔の皮
 は、柔らかく、口当たりが
 良い。下谷とせせらり
 對馬やと 津崎氏製

安政庚申 孟春新刻略目

初板とごころのまじり

方便忘語 靈劫不思議
 初編

善惡 初編

二編 兩面鏡 近々出版

十返舎一九作
 笠亭仙果助録
 雄齋國輝画
 一壽齋國貞画

忠臣百人一趣 義士銘略記
 中本一冊近刻
 柳下亭種員編

茶種の花双蝶々 笠亭仙果作
 一壽齋國貞画

當寫殿下茶屋村 鈍亭魯文録
 歌川國貞画
 よと切三冊

地本草紙問屋灸

江戸芳所
 かやからり

榮久堂山本屋平吉板

國輝堂

水化



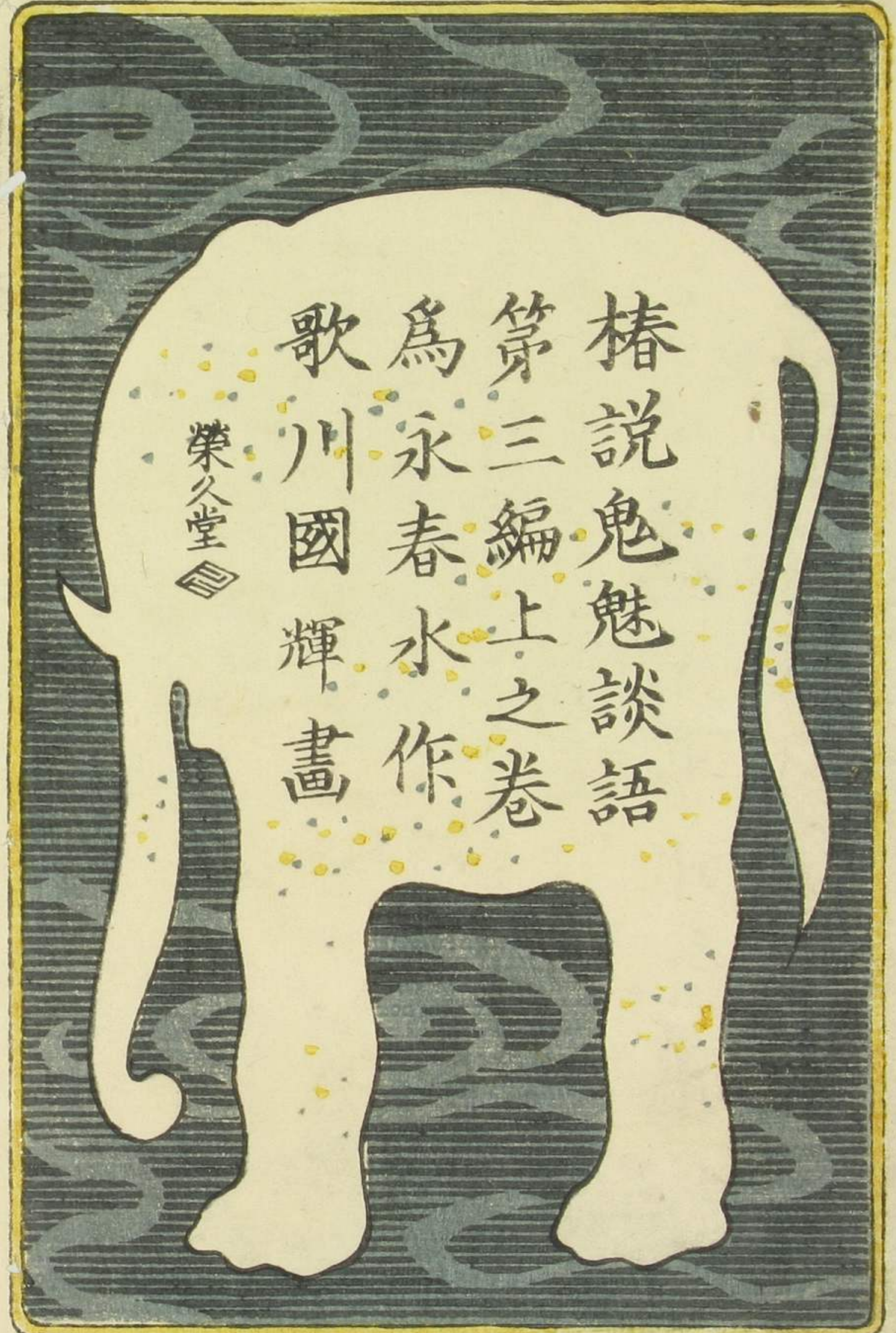
作題

三編上



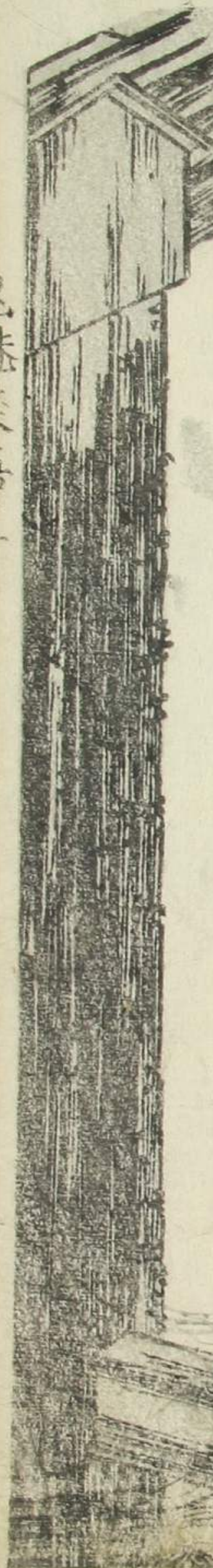
椿説鬼魅談語
 第三編上之卷
 爲永春水作
 歌川國輝畫

榮久堂



ひうりのの婆、お倣ひ古ひ赴向を洗濯して綴やろの、小冊の
 拾ふ桃を種とらふ見ふ枝葉を添ふるあれと素より知は根の度
 然ともむの、發端何某殿の御内にて本名何との、若と出さむ、當時の
 季候お惚りて、仍く首ふ山蔭のかれ御殿場より編むを、
 浮木をうを説果つ二編の、つらて漸と桃の流て来りて、
 見せし、最つ来いと三編を、又榮久堂お需られ硯の川へ
 古筆と、ごんごうとつこと突込で復一帙の稿を脱し、
 一冊

（八）牛の春新鑄
 爲永春水記

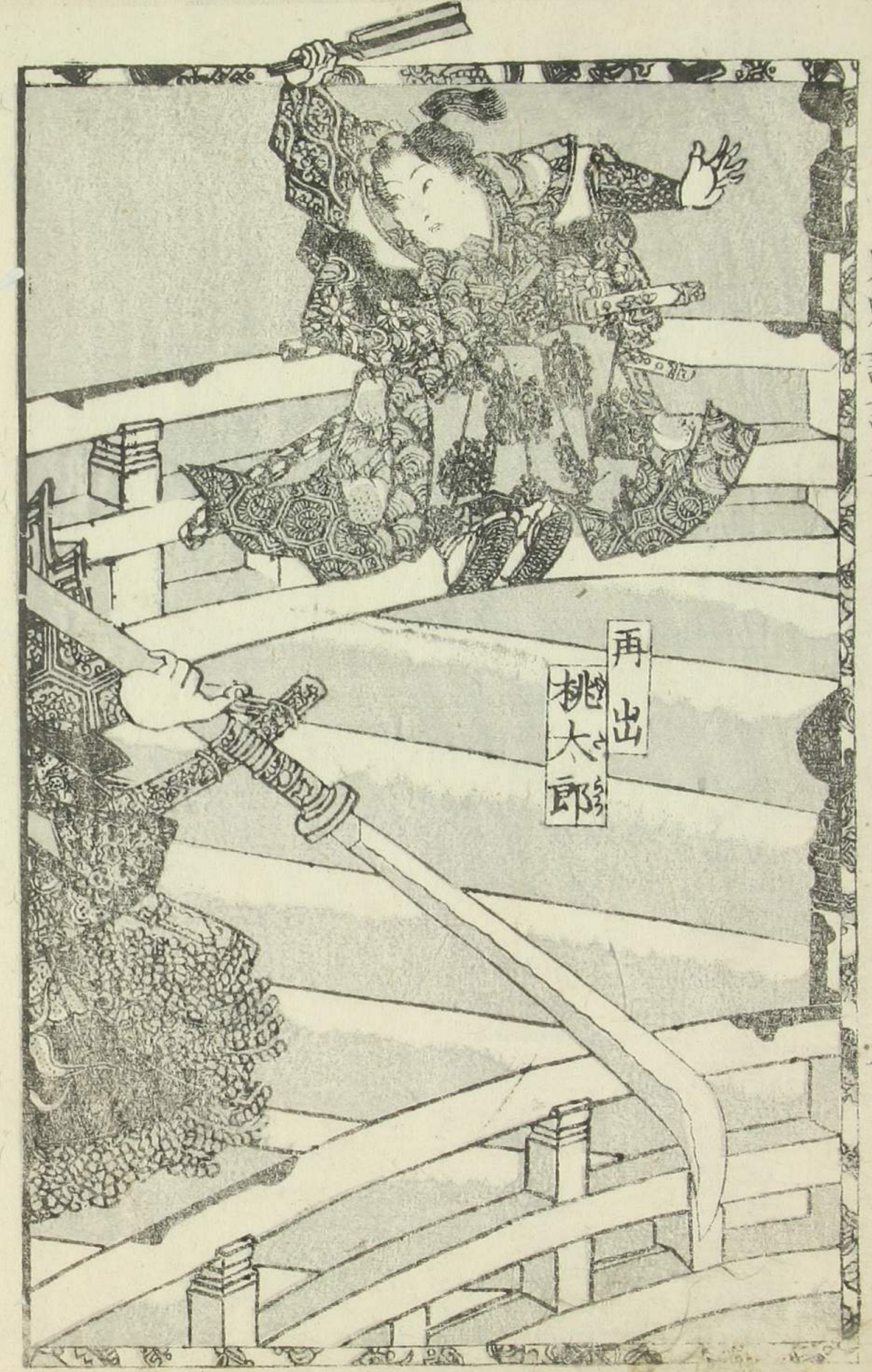


鬼魅談語



盗賊の首領
鬼夜月丸

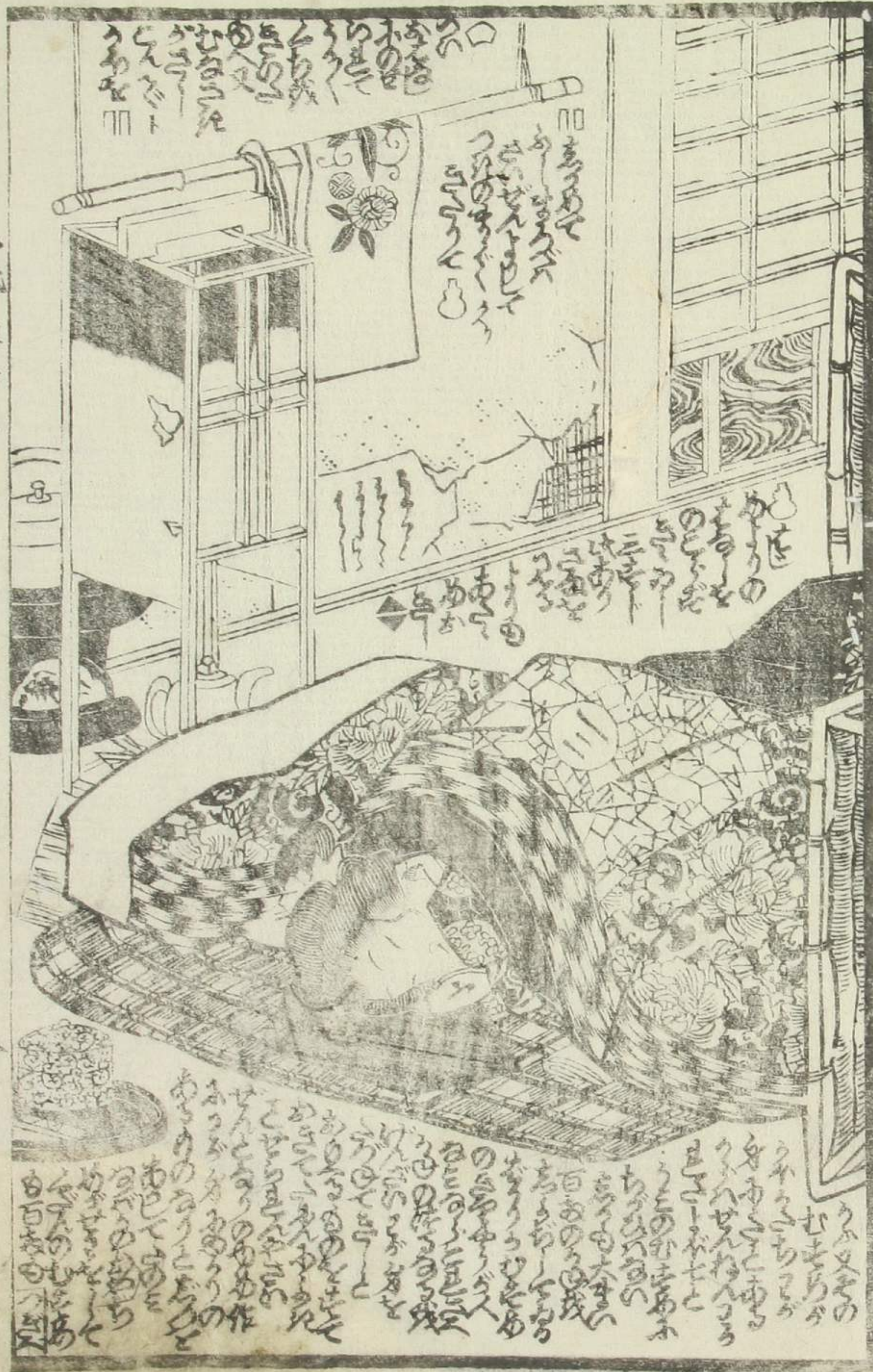
鬼夜月丸



再出
桃太郎

鬼夜月丸



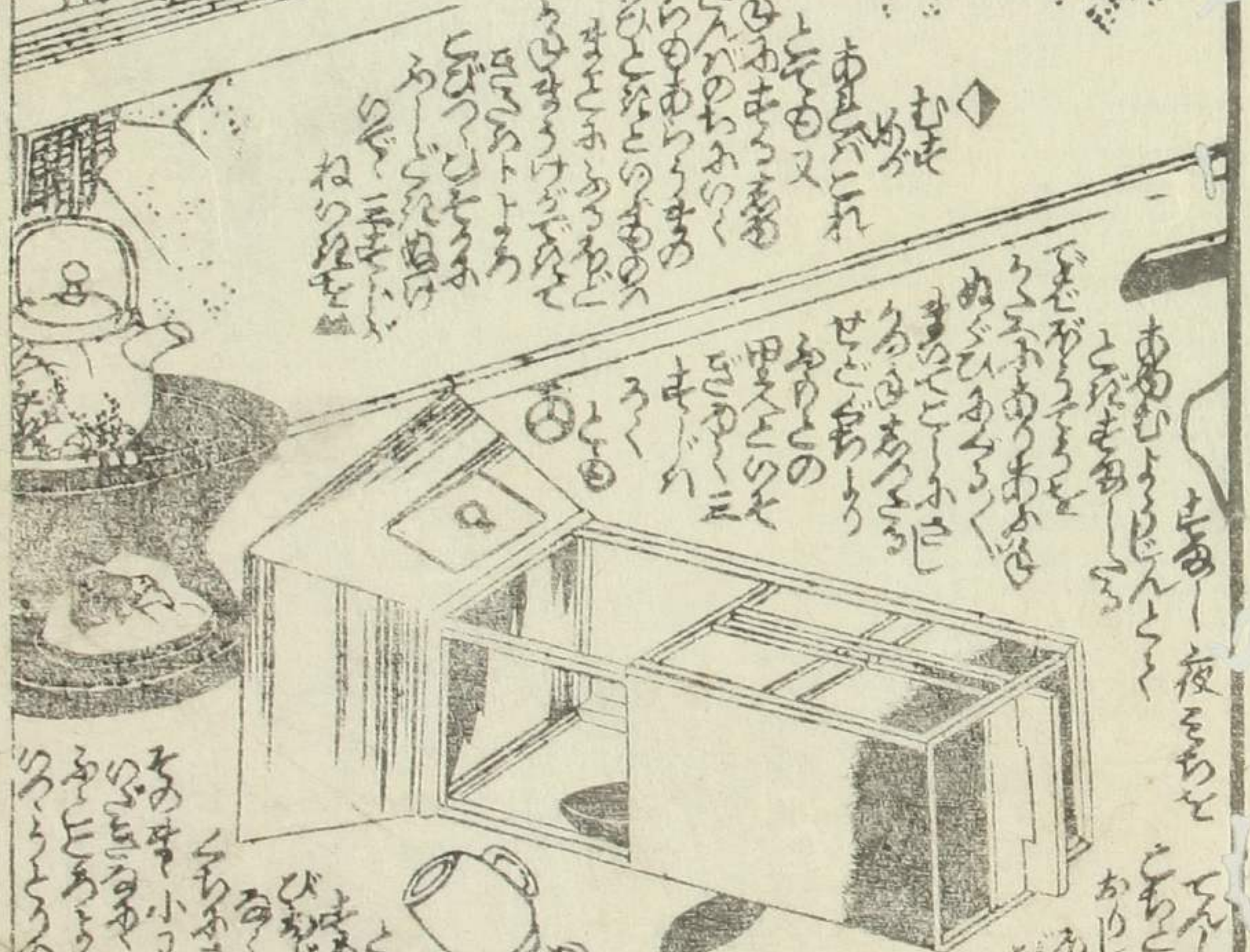
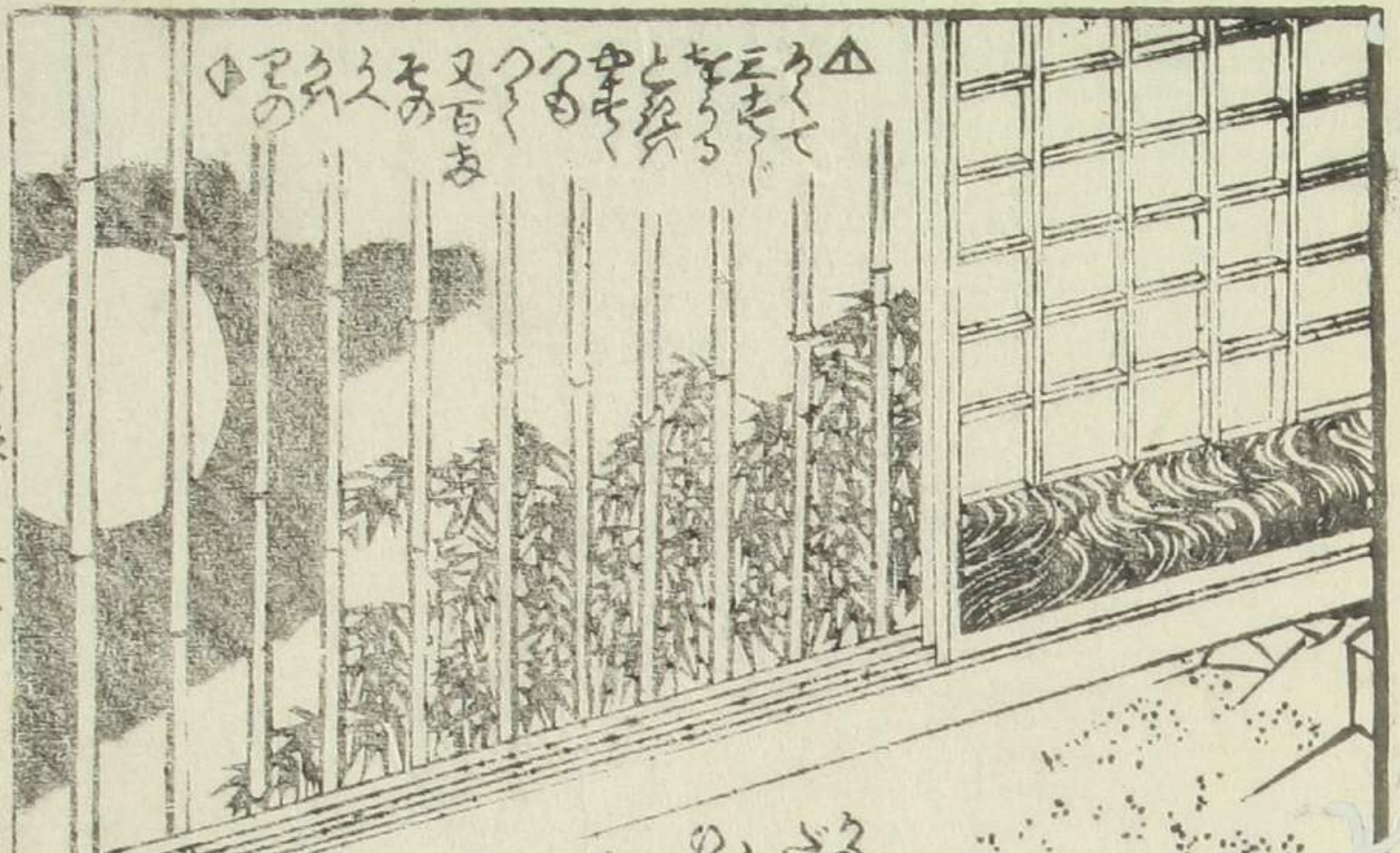


さういふ人なればさういふ言はれ
けりさういふ人なればさういふ言はれ
さういふ人なればさういふ言はれ
さういふ人なればさういふ言はれ
さういふ人なればさういふ言はれ
さういふ人なればさういふ言はれ
さういふ人なればさういふ言はれ
さういふ人なればさういふ言はれ

鬼の目撃記



さういふ人なればさういふ言はれ
さういふ人なればさういふ言はれ
さういふ人なればさういふ言はれ
さういふ人なればさういふ言はれ
さういふ人なればさういふ言はれ
さういふ人なればさういふ言はれ
さういふ人なればさういふ言はれ
さういふ人なればさういふ言はれ



さういふ人なればさういふ言はれ
さういふ人なればさういふ言はれ
さういふ人なればさういふ言はれ
さういふ人なればさういふ言はれ
さういふ人なればさういふ言はれ
さういふ人なればさういふ言はれ
さういふ人なればさういふ言はれ
さういふ人なればさういふ言はれ

為永春水作一雄齋國輝画



この物語は、永春水の作である。一雄齋國輝の画である。この物語は、永春水の作である。一雄齋國輝の画である。

この物語は、永春水の作である。一雄齋國輝の画である。この物語は、永春水の作である。一雄齋國輝の画である。

桃太郎 鬼嶋傳

椿説鬼魅談語

七編 十編迄

為永春水作 一雄齋國輝画

榮久堂刊行 蔵板録目

瀬川五郎

情花廓文庫

初編 二編

白養美人香

繪姉妹次女見草紙

初編 二編

山本屋平吉

一名 あらまのり

三都妖婦傳

四五之巻 當出板

仙果著作 豊國翁画

枕詞
鬼魅
椿説
談話
傳書

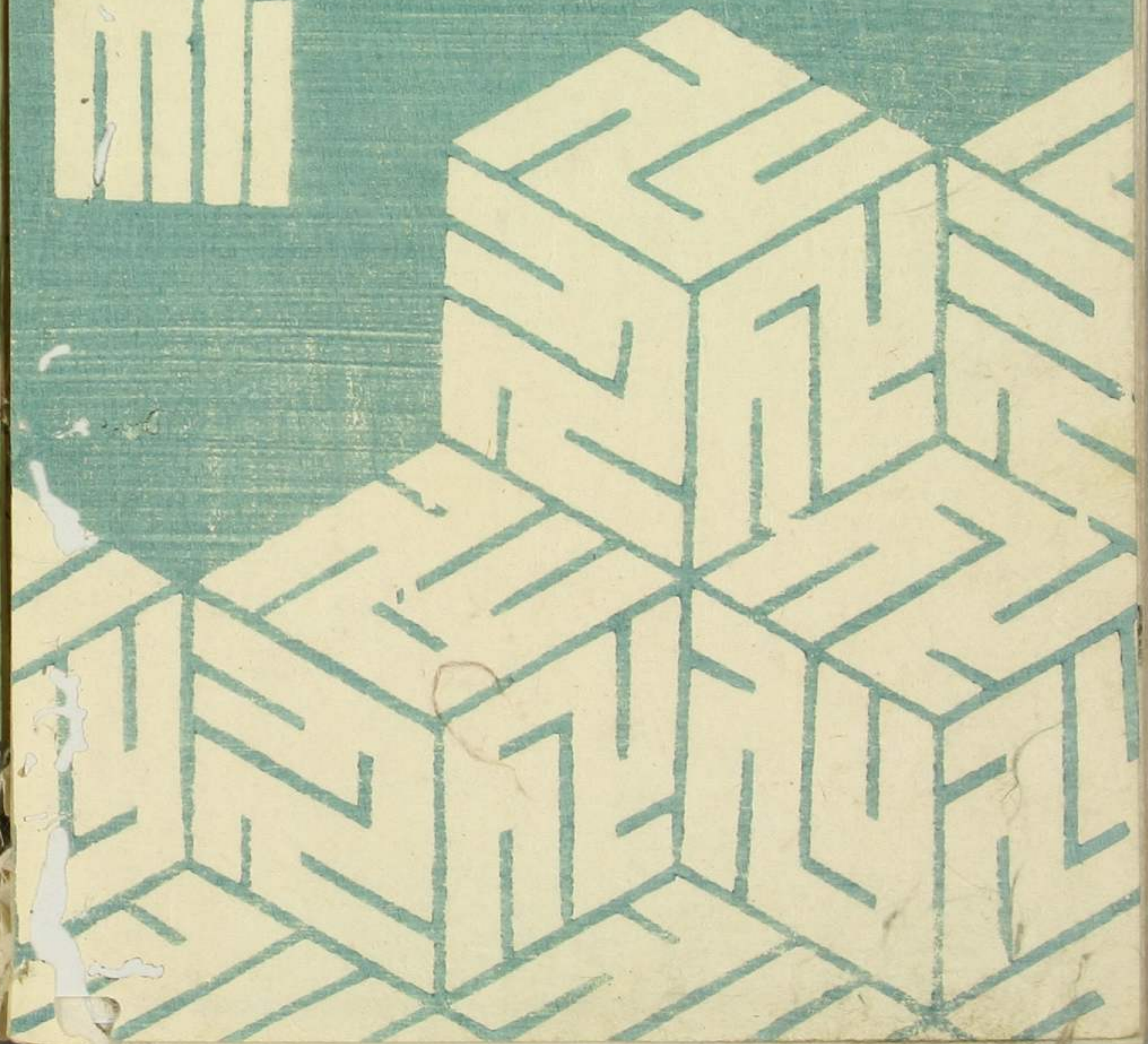
三編下

榮久堂壽梓



仙

仙



Handwritten text in a vertical column on the left side of the page, likely a preface or commentary.



Handwritten text in a vertical column at the bottom of the page, likely a postscript or additional commentary.



鬼鹿詩三
鬼鹿詩三
鬼鹿詩三



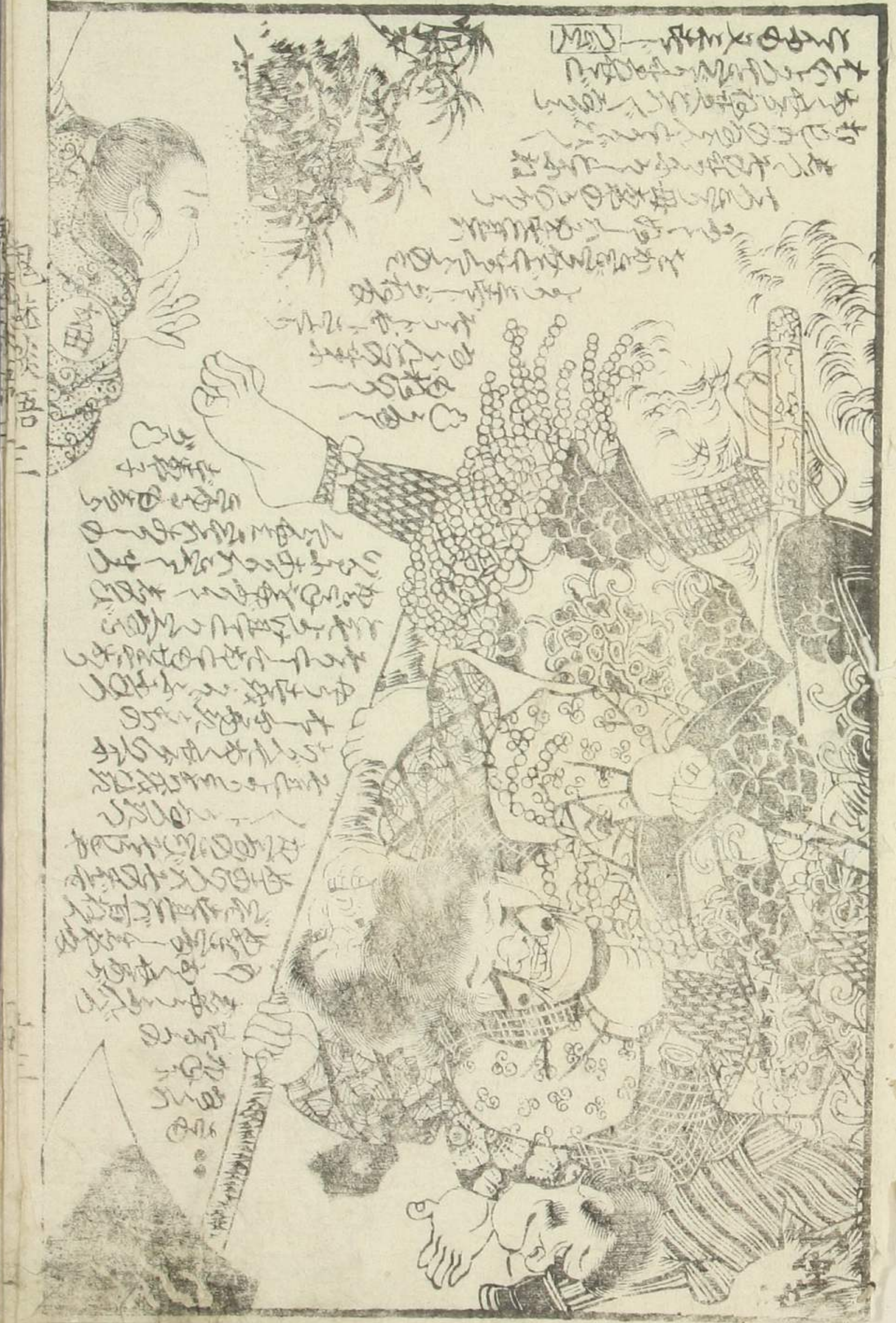
鬼鹿詩三
鬼鹿詩三
鬼鹿詩三

鬼鹿詩三
鬼鹿詩三
鬼鹿詩三



鬼鹿詩三
鬼鹿詩三
鬼鹿詩三

鬼鹿詩三
鬼鹿詩三
鬼鹿詩三



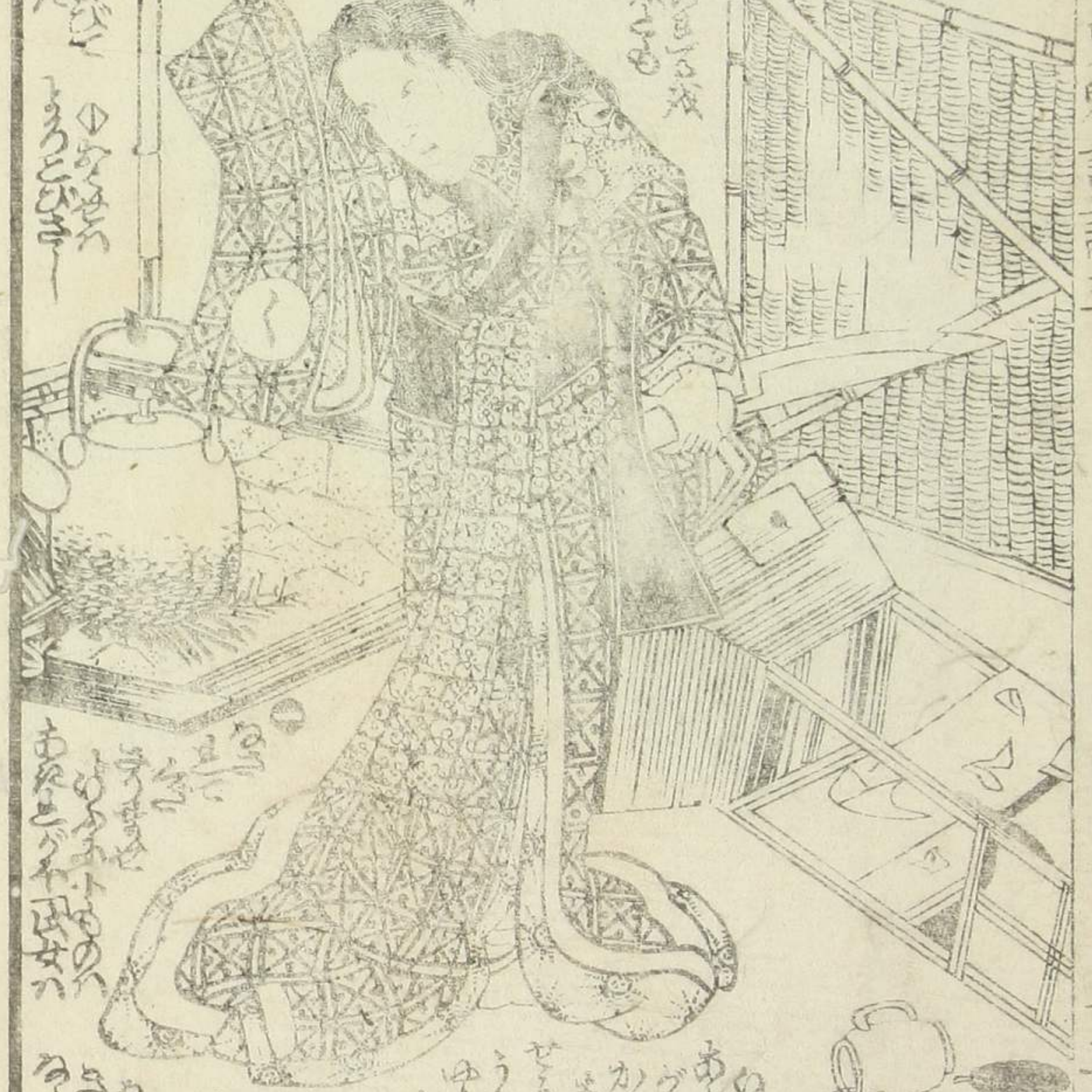
見解言記三



見解言記三

Handwritten text in a cursive script, likely a list or inventory, located at the top of the right page.

Handwritten text on the left side of the right page, possibly a title or introductory text.



Handwritten text at the bottom of the right page, continuing the list or inventory.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or inventory, located at the top of the left page.



Handwritten text at the bottom of the left page, continuing the list or inventory.

ついでにまた
あつちのまは
ごころを
ねえとくわ
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは

あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは



あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは

あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは

あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは

あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは

あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは

あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは

あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは
あつちのまは



春水作國輝画



朝鮮牛肉丸 一包

このころよりあり、松
仙めいれ他、み茶の
さるりも物、さるり
後、さるり、さるり
内、さるり、さるり
中、さるり、さるり
對、さるり、さるり

安政庚申 孟春新刻略目

初板をさるりるさるり

方便忘語 塵劫不思義
勸懲奇偶 神愛不思義

善惡 初編

二編 兩面鏡 近々出版

十返舎一九作
笠亭仙果助録
雄齋國輝画
壽齋國貞画

地本草紙問屋灸

江戸芳所
かやち

榮久堂山本屋平吉板

忠臣百人一趣

柳下亭種員編

義士銘略記
中本一冊近刻

茶種の花双蝶々

笠亭仙果作
一壽齋國貞画

當寫殿下茶屋村

切三冊

鈍亭魯文録
歌川國貞画



